

観光学研究科修了生の皆さんへ

2020年3月

観光学研究科委員長 橋本俊哉

この春、立教大学は1名に観光学博士号を、8名に観光学修士号を授与しました。学位を取得された皆さん、おめでとうございます。皆さんが手にされた学位記は、学位に値する研鑽を積み、学位にふさわしい知的技能を修得したことを、立教大学が認定した証です。学位を取得したことに自信と誇りをもって、4月からの新しい道を行ってください。

皆さんが経験した「論文を書く」ことを、重い荷物を背負って山を登ることに例えてみましょう。時には道に迷い、時には登ってきた道を振り返って休憩しながら、山を登り続けたはずです。論文を提出した時は、さながら山頂で荷物を降ろした時のような、何とも言えない解放感・達成感を感じたことと思います。

皆さんにとって、専門知識を身につけたことも大事な財産ですが、実際に論文をまとめた経験は、荷づくりをすることから、山道で実際に天候を読み、体調を整えながら登るなど、学位論文をまとめる「登山」に必要なとされるノウハウの集大成であったはずです。それらを身につけながら目指した山を克服した経験は、大きな自信となるでしょう。

学位を授与するということは、今後は皆さん自身が、観光学研究科の先生方というガイド役の存在なしに、山に登れることを保証するものです。つまり、皆さんが立ち位置を自分で決め、自身で荷づくりをし、天候を読みつつ自ら判断して山に登れるようになるということです。山登りは誰でも最初は初心者ですが、皆さんは観光学研究科で数々のトレーニングを積んできたことで、これからは違うタイプの山に、またより高い山にも登れるような、応用が利く研究を進めることができるはずです。さらには今後、皆さんが後進の研究者を導くガイド役として活躍されることを期待しています。

「観光」は人びとになじみのある社会現象であるがゆえに、研究の着眼点や、適した研究方法・データ分析手法にもとづく研究を積み重ねることが何より重要になります。それらを身につけたことは、皆さんのこれからの人生にとって、かけがえのない財産となることでしょう。

もう一つの大きな財産は、在学中に知り合った研究者仲間や、指導いただいた先生方との縁です。立教大学の観光学研究科で学んだことに誇りと責任感をもって、在学中に培った研究者ネットワークを大切にしてください。

本当におめでとうございます。4月からの皆さんのご活躍をお祈りします。